

令和2年度  
春日市文化財年報

2022

春日市教育委員会

令和 2 年度  
春日市文化財年報

2022

春日市教育委員会



## 序

春日市は福岡市の南東に隣接しており、恵まれた立地から昭和の高度経済成長期以降、住宅都市として発展しています。昭和47年の市制施行時に、約5万人であった人口は増加の一途をたどり、現在では14.15㎢の面積に約11万人が暮らす、九州で最も人口密度の高い市となりました。一方で、市内には“弥生銀座”といわれるほど弥生時代の遺跡が密集しており、国内でも有数の発掘調査成果を挙げております。

本年度は、奴国の王族墓域と称される須玖岡本遺跡岡本地区の20次調査地から出土した甕棺および副葬品の銅剣と青銅製把頭飾が春日市指定文化財に指定されたことを記念して、令和3年度トピック展示「市指定化記念展～須玖岡本遺跡岡本地区 20次調査出土 銅剣・青銅製把頭飾・甕棺～」を行いました。

本書は、令和2年度に実施した市内における埋蔵文化財の発掘調査及び奴国の丘歴史資料館の事業の概要をまとめたものです。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御協力をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

令和4年3月31日

春日市教育委員会  
教育長 扇 弘 行

## 目 次

I	文化財保護事業の現状と組織	1
II	発掘調査の概要	
1	仁王手B遺跡（6次調査）	2
2	大土居水城跡（7次調査）	5
3	石尺遺跡（8次調査）	8
4	須玖坂本B遺跡（8次調査）	11
5	須玖岡本遺跡岡本地区（23次調査）	13
6	寺屋敷B遺跡（1次調査）	16
7	大土居水城跡（8次調査）	19
8	日拝塚遺跡（10次調査）	22
9	野藤遺跡（8次調査）	25
10	仁王手B遺跡（7次調査）	28
11	須玖岡本遺跡岡本地区（24次調査）	31
III	文化財普及啓発事業	
1	企画展示等	
①	トビック展示「市指定化記念展」	33
②	考古企画展「春日市の遺跡から出土した木製品」	33
③	特別展示「明らかにされた奴国のおもり」	33
④	民俗企画展「ナニコレ！？民具展」	33
2	やきものづくり教室	34
3	わくわく歴史体験（歴史体験教室）	34
4	弥生の里かすが奴国の丘フェスタ	35
5	学習支援活動	35
6	出前講座等	35
7	ボランティア組織	35
8	資料貸出	35
9	入館者数	35
10	利用案内	36
IV	附編（調査・研究報告）	
1	民俗文化財の保存・活用	37

## 例 言

- 1 本書は、春日市教育委員会文化財課が、令和2年度に行った文化財事業の概要をまとめたものである。
- 2 本書の作成は、担当者が分担して行った。
- 3 本書に使用した各種図版の作成は、稲永美紀、吉田薫、吉村美保が行った。
- 4 本書に使用した写真の一部は、有限会社 空中写真企画の撮影による。
- 5 発掘調査の概要については、文末に報告者名を記した。

# I 文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和 52 年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を発足させ、整備を行なながら今日に至った。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるために事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については発掘調査による記録保存を行っている。

令和 2 年度の開発事前審査における文化財有無の問い合わせ件数は 1494 件、事前審査のうち試掘・確認調査は 66 件（内文書審査 9 件）であり、前年度と比較すると、問い合わせ件数が減少している。開発内容は、共同住宅建設が 21 件（37%）、個人住宅件数が 23 件（40%）で、その他の 13 件を含めると申請件数の約 8 割が住宅建設に伴うものである。

このうち埋蔵文化財が確認され、文化財保護法第 93・94 条の規定に基づき本調査を行うようになったものは 6 件、工事立ち合いで対処したものは 9 件である。埋蔵文化財が確認されず、慎重工事で対処したものは 23 件である。

文化財普及啓発事業では、春日市内の遺跡から出土した木製品や建築部材を中心に、人々の暮らしの中の木の道具を展示した考古企画展「春日市の遺跡から出土した木製品」を行った。このほか、市内外への文化財の啓発のため第 10 回奴国のかずら祭りを 9 月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため令和 3 年度に延期した。

令和 2 年度の文化財行政にかかる組織体制は次の通りである。

教育長 扇 弘行

教育部長 神田芳樹

文化財課長 高田勘治

整備活用担当

統括係長 高田博之

主 査 森井千賀子

主 査 大原佳瑞重（～6 月）

主 査 飛永宗俊

主 任 塚元雅代（7 月～）

会計年度任用職員 和田奈緒

会計年度任用職員 西尾純司

調査保存担当

課長補佐 中村昇平

主 査 吉田佳広

主 査 井上義也

主 任 山崎悠郁子

主 事 熊埜御堂早和子

会計年度任用職員 川村 博

会計年度任用職員 稲生優美

会計年度任用職員 下田詩織

会計年度任用職員 田中 健

## II 発掘調査の概要

### 1 仁王手B遺跡（6次調査）

所在地 春日市小倉7丁目107、108番

調査面積 400.05 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年4月3日～7月31日

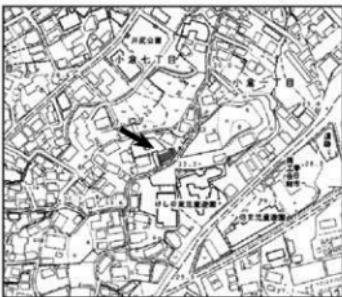
仁王手B遺跡は、春日丘陵中央部から東に延びる支丘陵上に展開する。過去5回の発掘調査では弥生時代前期末から中期初頭の貯蔵穴や中期の墳墓、古墳時代の堅穴建物跡、平安時代の木棺墓等が確認された。

今回の調査地は標高約35.0mを測り、遺跡が展開する丘陵の頂部から南側緩斜面にあたる。分譲住宅の建設に伴う緊急発掘調査である。

#### 遺構・遺物

6次調査では、堅穴建物跡4軒、掘立柱建物跡1棟、土坑14基（その内貯蔵穴6基）、ピット多数を検出した。調査区の北側は後世の土地造成に伴い、1m以上の削平を受けるため、遺構の大半は南側に残存する。

堅穴建物跡の平面形は、方形ないし長方形で、弥生時代と古墳時代を確認している。弥生時代は残



1. 調査地の位置 (1/5000)



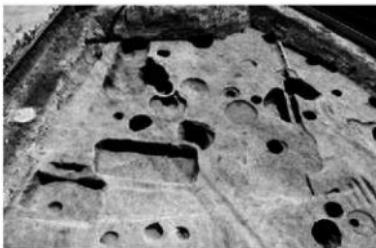
2. 調査区全景（上が北）

存状況が非常に悪い。1号竪穴建物跡は調査区の南西部で検出した。東西幅4.7mを測り、南側約1/2は道路の開削と擁壁の設置に伴い削平される。柱穴1つと炉跡を確認した。貼り床は確認できなかった。2号竪穴建物跡は調査区の東端で検出した。東西幅5.2m以上、南北幅5mを測る。西側は強く削平を受け、はっきりとした壁面を検出できなかった。主柱穴は東西方向に2本あり、中央に炉跡を確認した。古墳時代の竪穴建物跡はいずれも方形である。3号竪穴建物跡は調査区の南東隅で確認した。東西幅3.6mを測り、1号住居跡同様南側が削平される。柱の配置から4本柱と思われる。床面からやや浮いた状態で5世紀の須恵器環蓋や土師器、滑石製円盤状石製品1点、白玉178点を確認した。土器類は南西隅、白玉等は北壁中央付近にまとまっていた。土器類の下には青灰色の粘土が堆積しており、何らかの意図をもつて土器が置かれた可能性がある。4号竪穴建物跡は調査区の西端で確認した。南北軸4.6m以上で、南側は後世の削平と遺構で不明だが、北側は土を盛ってベッド状遺構を設ける。壁際に沿って幅10cmの溝を掘るが、貼り床面を掘り下げたところ、ベッド状遺構の下から東壁に並行する溝をもう一條確認した。ベッド状遺構が別にあった、もしくは住居を拡張した可能性がある。

土坑は、円形と方形のものを確認した。このうち壁面が内傾している1・4・5・6・7・9号土坑については貯蔵穴と認識している。貯蔵穴の時期は弥生時代前期末から中期初頭である。1号土坑の床面中央部から炭化木材、5号土坑からスクレイバー、7号土坑床面から今山産磨製石斧片が出土した。13・15号土坑からは弥生時代中期前半～中頃の土器が集中して出土する。土器の中には丹塗りされたものがあり、祭祀土坑になる可能性がある。11・12号土坑は、長軸約2m、短軸約1mの長方形の土坑である。いずれも時期の断定できる遺物は出土していないが、覆土が似ており床面から5cm程度に微細な炭化物が多く混じる層を確認した。

## 小 結

今回の調査は、これまでの調査を補完する結果となつた。弥生時代前期末から中期初頭の貯蔵穴と5世紀代の竪穴建物跡の存在から、集落内での土地活用について成果を得た。(山崎)



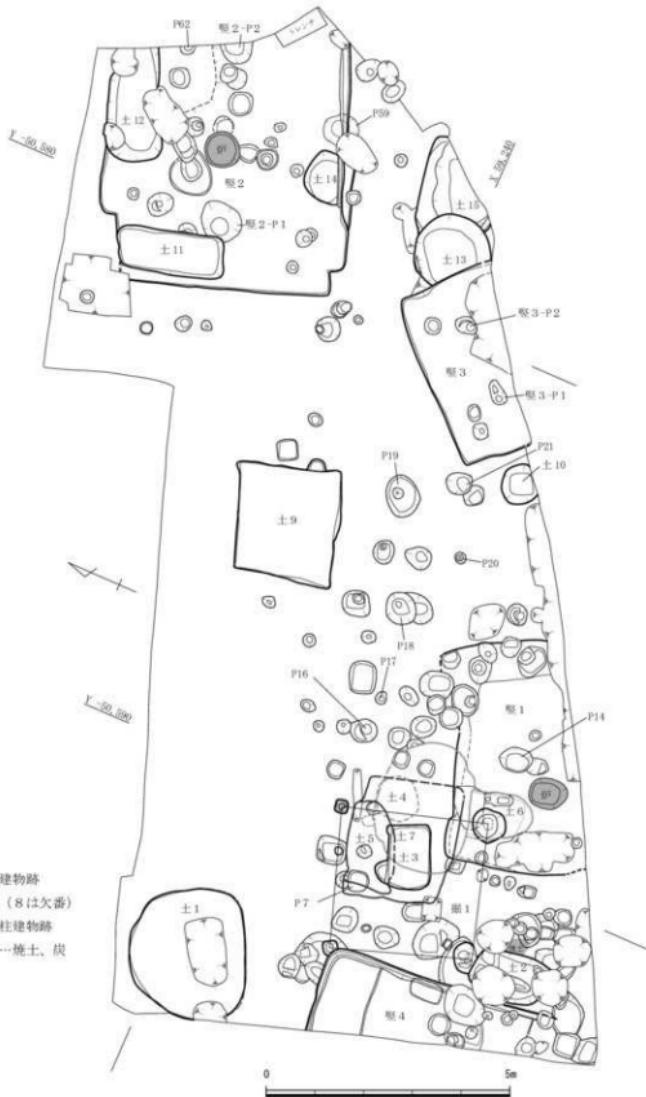
3. 2号竪穴建物跡（西から）



4. 3号竪穴建物跡（北から）



5. 1号土坑土器、炭化木材出土状況（北から）



6. 遺構配置図 (1/100)

## 2 大土居水城跡（7次調査）

所在地 春日市昇町7丁目54番1～3、55番

調査面積 9.5 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年4月6日～2020年4月27日

特別史跡大土居水城跡は県道により東西に分断されおり、県道東側の土壘では史跡指定以前に土壘上にあった個人住宅建設時に施工された擁壁が市道に面して残っている。これらの擁壁に経年劣化とみられるひび割れがみられ、土壘の保全かつ安全上の対策が必要であることから、擁壁改修計画に先立ち、史跡の現状変更申請し、確認調査を行った。

### 遺構・遺物

土壘（積み土）の残存状況とその範囲を確認するため、東側土壘の市道寄りにトレッチを5ヶ所設定した。土壘上の平坦面に3ヶ所、北東部斜面に1ヶ所、南西平坦部に1ヶ所である。土壘上平坦部の1トレッチでは現地表面から深さ約35cmで積み土に達し、3トレッチでは現地表面から深さ約60cmで積み土に達した。北東部斜面の2トレッチでは、現地表面から深さ約100cmで積み土に達した。積み土の



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（東から）



3. 1 トレンチ（西から）



4. 1 トレンチ（北から）



5. 2 トレンチ（東から）



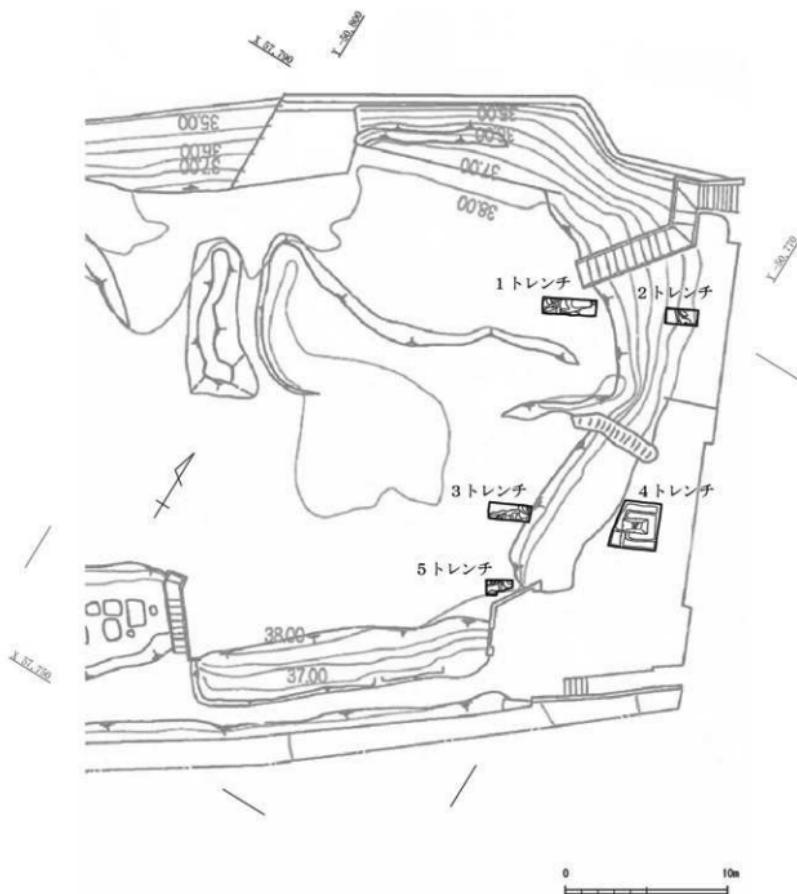
6. 3 トレンチ（北西から）

一部において、水城跡の積み土にみられる黒色土塊を確認した。南西平坦部の4 トレンチでは現地表面から深さ 280 cmまで客土があり、これ以上、人力で掘削できず土壌の積み土を確認することができなかつた。土壌上平坦部の5 トレンチも客土であり、積み土は確認できなかつた。

#### 小 結

今回の確認調査で、ほぼ東西に走る土壌の東端部で土壌の積み土を確認することができた。また、宅地造成による掘削で積み土が消失し、市道沿いでは客土されている状況であった。

調査地点の東側は市道を介して小河川（諸岡川）が北流し、その東側に自然丘陵が並行している。築造時の土壌の東方への取り付きについては土工の変化や大水城に見られる岩塊などの併用が想定できるが、今回の調査範囲においては確認することはできなかつた。（森井）



7. トレンチ配置図 (1/300)

### 3 石尺遺跡（8次調査）

所在地 春日市下白水南3丁目27番、28番

調査面積 406 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年4月7日～2020年7月16日

石尺遺跡は、春日丘陵西側の台地上に位置し、遺構面の標高は26m前後である。これまでに実施した発掘調査では、主に弥生時代中期前半から古墳時代にかけての集落跡を確認している。本調査地から約50m東南側に位置する3次調査では、弥生時代中期前半の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、土坑を確認している。また、約60m西側に位置する7次調査では、弥生時代後期から古墳時代前半の竪穴建物跡や、弥生時代から中世にかけての土坑などを確認している。

今回の調査は住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が東）

### 遺構・遺物

8次調査では、堅穴建物跡2軒、土坑13基、溝2条、ピットなどを検出し、弥生土器、土師器、須恵器、鉄器などが出土した。

調査区の全体で、弥生時代中期と飛鳥時代の土坑を確認した。弥生時代中期の8号土坑は、約2.2×1.1m、深さ0.58mを測り、完形品を含む多量の弥生土器が出土した。飛鳥時代に比定される2号土坑は、約1.7×1.8m、深さ0.47mを測り、須恵器、土師器、鉄器が出土した。須恵器に関しては、焼け歪みによる変形が著しい資料が多くみられた。また、同時代の4号土坑は、約1.9×2.2m、深さ0.68mを測り、須恵器、土師器、鉄器が出土した。

調査区東南部で確認した南北方向に延びる2号溝は、溝の中心で陸橋状に途切れしており、溝からは弥生土器片が出土した。

### 小 結

今回の調査で特に注目されることは、堅穴建物跡や土坑を2号溝の北西側で確認したことである。このことから2号溝は、区画溝と考えられる。また、溝が調査区外まで続くことが予想され、溝と堅穴建物跡や土坑の位置関係から、調査区の北側に集落が広がる可能性がある。

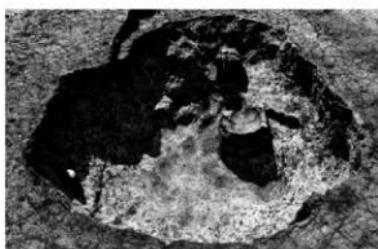
今回の調査では、主に弥生時代中期前半から中期の遺構と、飛鳥時代の遺構を検出した。これまでの調査事例を勘案すると、弥生時代中期の集落がさらに北に広がることが分かり、同時期の集落の動向を知るうえで貴重な成果となった。また、飛鳥時代の遺構は、調査区北側に位置する古水遺跡3次調査でも確認している。出土した須恵器や遺構の時期などを考慮すると、集落が続いていることがわかり、どの程度広がるかは今後の調査に期待したい。(熊野御堂)



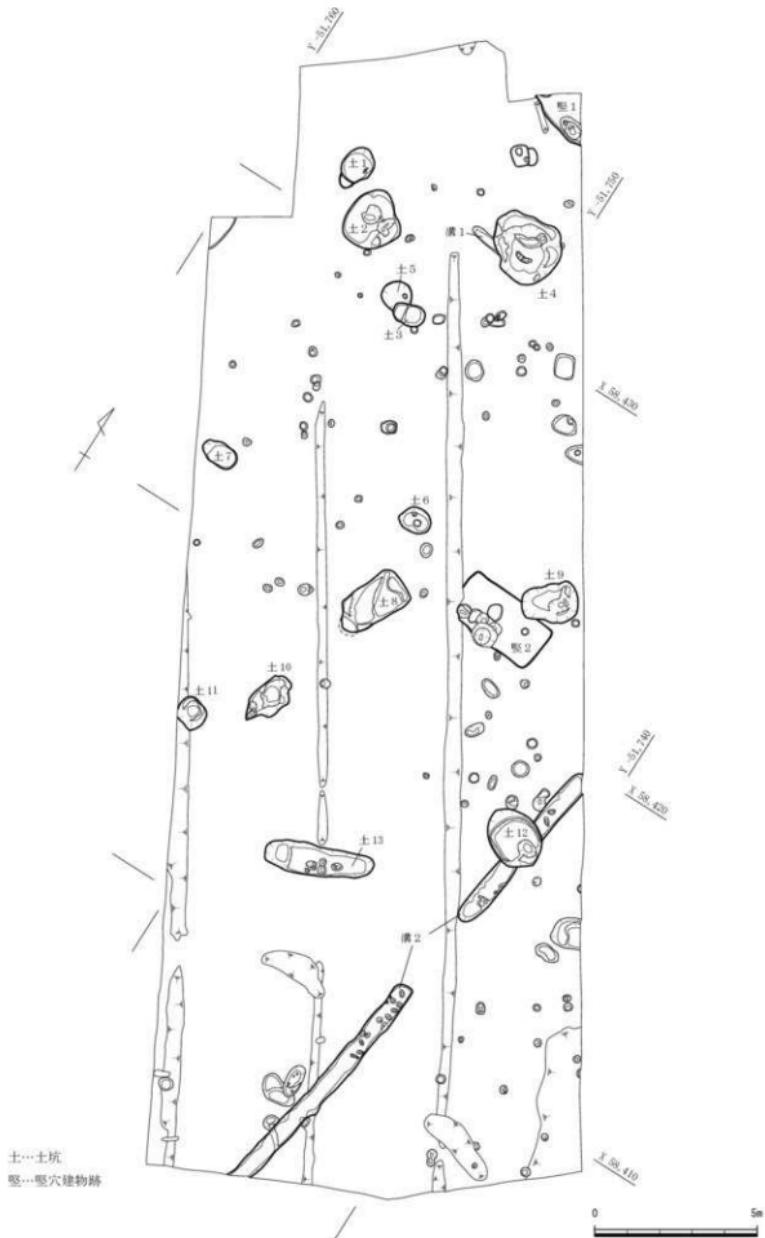
3. 8号土坑土器出土状況（西から）



4. 2号土坑土器出土状況（北から）



5. 4号土坑土器出土状況（東から）



6. 造構配置図 (1/150)

## 4 須玖坂本B遺跡（8次調査）

所在地 春日市岡本1丁目28番

調査面積 17.3 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年4月27日～5月7日

須玖坂本B遺跡は、春日丘陵の北方に広がる低地に位置し、西側には諸岡川が北流する。過去に行われた調査では、弥生時代中・後期を中心とする青銅器生産関連遺物、区画を示す直線的な構を検出した。

試掘調査前、当該地は須玖坂本B遺跡の隣接地であった。2020年4月9日に試掘調査を行ったところ、土器、木製品を含む黒灰色粘土の包含層が検出されたため、包蔵地の範囲を広げ、発掘調査することになった。

今回の調査は住宅建築に伴う緊急発掘調査である。

### 遺構・遺物

地表面の標高は17.5m前後、包含層は地表から2.5m下にある。調査は建物の基礎に影響がないようにする必要があったため、6ヶ所にトレンチを設定し、バックホーで厚さ60cm程度の遺物包含層を地表に掘り上げ、遺物を拾い上げる方法をとった。トレンチは深く、水も湧き軟弱なため、記録は地表から写真を撮ることしかできなかった。

遺物は弥生時代中・後期を中心とする土器・木製品とともに、流木、樹種などの自然遺物も含まれていた。木製品は杭、容器片などの他に、木織、漆塗高杯の脚部と思われるものもあった。遺物は2・4・5トレンチから多く出土するため、調査地の南西側から流れ込んだ可能性がある。

当調査地の遺物が出土する層は過去の調査地よりも3m以上低い。また、西側の春日北小学校と調査地の間には水路があり、周辺の試掘調査からも、当地周辺は谷であったことが分かる。須玖岡本遺跡坂本地区6次調査では、坂本地区と須玖坂本B遺跡の中心部の間に谷があることが分かっており、当調査地とつながる可能性がある。

### 小 結

今回の調査では弥生時代中・後期を中心とした土器、木製品を確認したが、トレンチ状に掘り下げて行ったため、遺跡の詳細は不明である。過去の調査成果から判断すれば、西側の春日北小学校のグラウンドが遺跡の中心部であることは間違いない。当遺跡は奴国王の居宅の存在が推定される候補地の一つであり、今後の調査成果に期待したい。（下田）



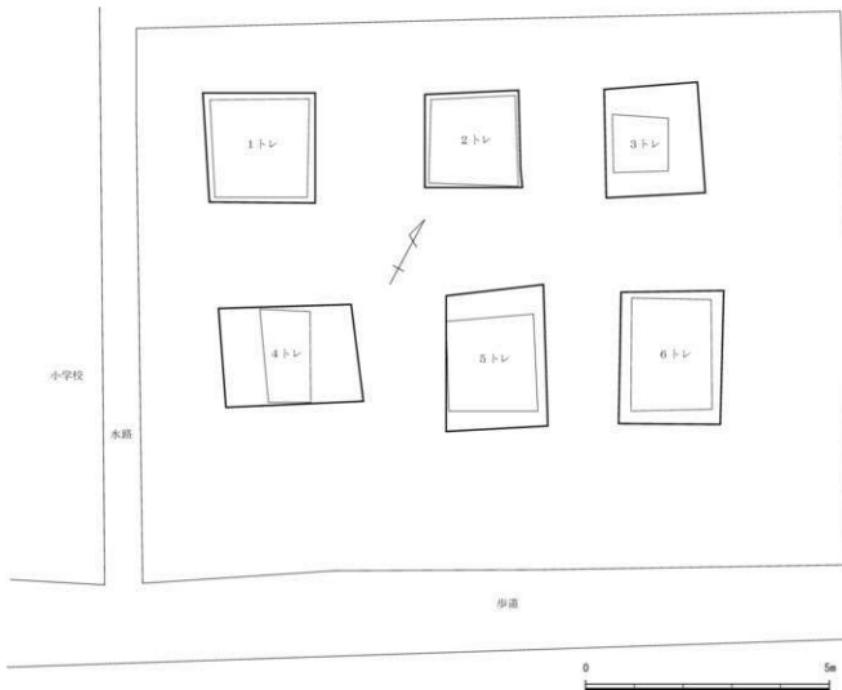
1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 6 トレンチ (西から)



3. 土層模式図



4. トレンチの位置 (1/100)

## 5 須玖岡本遺跡岡本地区（23次調査）

所在地 春日市岡本7丁目76番

調査面積 115.60 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年5月19日～8月6日

春日市の中央部に、南北に延びる春日丘陵北部とその周辺低地には、多くの弥生時代の遺跡が確認され、奴国の王都須玖遺跡群と呼ばれる。須玖岡本遺跡はこの遺跡群の中核的な遺跡で、遺跡の性格により岡本地区、坂本地区、岡本山地区、盤石地区の4つに分かれる。

今回調査した岡本地区は、1899年に発見された王墓や

王族墓とされる厚葬墓や副葬品を伴う奴国の首長層の墓地を中心とする遺跡である。

23次調査地は、王墓、王族墓が集中するエリアの70m南東、岡本地区南東隅部に位置し、国史跡として指定、保存される。2019年に地中レーダー探査を行ったところ、地表下約80cmの深さに、甕棺墓らしき反応が出た。今回の調査は、この結果を受けて、遺跡検出面までの深さと、遺跡の性格を検証するための確認調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北）

### 遺構・遺物

以前、当該地は家屋やその畠地として活用されており、遺構面までの深さについては不明であった。また、大きな石が置かれていたという話が伝わっていたが、現在はその石ではなく、石が当該地の土中から出たものか、近隣から持ち込まれたのかも不明であった。

地中レーダー探査の結果では、地表下 80 cm で甕棺墓らしき反応があったため、まずは幅 1 m のトレンチを十字形に設定し、人力による掘削を行った。表土、客土や整地土を取り除くと、深さ 60 ~ 80 cm で南から北、東から西へ緩やかに下がる赤褐色土の地山面に達した。地山には弥生時代と考えられる遺構が認められた。この結果、トレンチを拡張する形で、東西約 16 m、南北約 9 m（南東部は未掘）の調査区を設定し、重機により地山面の直上まで掘削し、遺構検出は人力で行った。なお、遺構は表面での確認を基本とし、必要に応じて半裁、トレンチや数 cm の掘削を行った。

調査区全体に弥生時代と古代のピットが散見される。東部は竪穴建物跡と考えられる弥生時代中期後半の遺構を確認した。貼り床状の床面まで数 cm と残りが悪く、中央部に擾乱溝があるため詳細は不明だが、平面形や床面の深さを考えれば、2 軒の建物跡が重複すると考えられる。青銅器鋳型 13 片や銅矛中型 3 片が出るため、青銅器工房の可能性がある。西部は包含層が堆積する。土層観察は南西隅の大形擾乱を利用したところ、下層は弥生時代中期後半の土器、上層は須恵器や瓦が混じる。包含層下には弥生時代中期前半～中頃のピットが確認できた。

### 小 結

今回の調査は、地中レーダー探査の結果を受け、遺構面までの深さや遺跡の性格を把握するための確認調査であった。当該地は、地中レーダー探査の結果に反して甕棺墓がなかったため墓地としてではな



3. 調査区東半部（上が北）

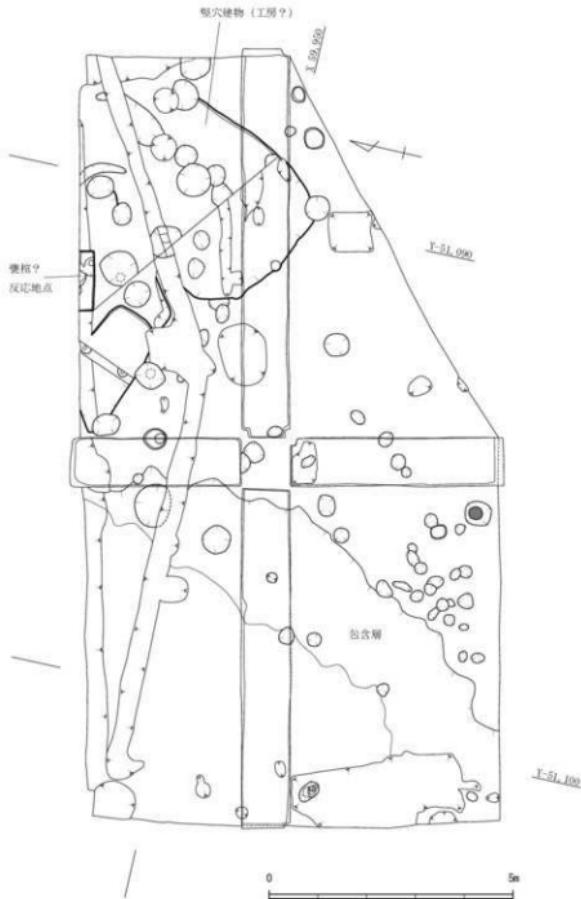


4. 鋳型 5~9 出土状況（北から）



5. 西側大擾乱東壁土層（西から）

く、集落（中期の青銅器工房）域として土地活用されたことが分かった。今後も地中レーダー探査の結果と確認調査の結果を比較、分析、補正しながら、遺跡を把握する必要があろう。（井上）



6. 遺構配置図 (1/100)

## 6 寺屋敷B遺跡（1次調査）

所在地 春日市小倉5丁目126番

調査面積 300 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年8月3日～10月31日

寺屋敷B遺跡は、春日丘陵中央部の支丘陵上に位置する。調査地の標高は約36mを測る。平成6年に行われた近隣の谷部での試掘調査の結果から、丘陵上に弥生時代から古墳時代にかけての集落があると推定されている。

今回の調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。

### 遺構・遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡2棟、甕棺墓1基、土坑1基、貯蔵穴8基、ビット多数を検出した。

掘立柱建物跡2棟は、調査区の東側で確認した。2棟とも1間×1間である。摩滅した弥生土器が出土しているが、小片のため詳細な時期は不明である。

甕棺墓は、調査区の北西部で検出した。弥生時代中期前半の小児棺で上部は後世に削平される。6号



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (上が北)

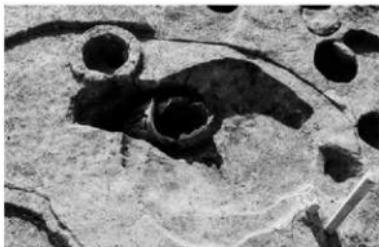
貯蔵穴埋没後に造られ、墓坑は、 $1.3\text{ m} \times 1.2\text{ m}$  の楕円形で、堅穴を掘った後、墓坑壁面に横穴を掘り、下甕を挿入する。傾斜角度は 27 度、接口式で、合わせ目の目貼り粘土はない。

8 基の貯蔵穴は、平面形が円形のものと方形のものを確認した。いずれも壁面が内斜する。2・4・5・6 号貯蔵穴の床面には不整形な楕円形の浅い掘り込みがあり、昇降用の梯子が設置されていた可能性がある。また、4 号貯蔵穴の底面に 4 つの柱穴を確認した。これらの柱穴は、貯蔵穴の構造を維持するためのもの、または、入り口に関係するものであると考えられる。6 号貯蔵穴の床面西側には  $1\text{ m} \times 0.5\text{ m}$  、深さ約 0.6 m の土坑が壁面に沿って掘られる。この土坑内には灰褐色砂質土のみが堆積しており、防湿や排水の役割を果たしていたと考えられる。7・8 号貯蔵穴では、壁面に段を設ける。貯蔵穴の時期は、出土している土器が少ないため、正確な時期は断定できないが、覆土の上層から弥生時代中期前半の土器が出土していることや周辺の遺跡の調査結果から、弥生時代前期末頃に造られ、中期前半までに埋没したと考えられる。

#### 小 結

今回の調査では、当地において弥生時代前期末から中期前半にかけての貯蔵穴群が形成されていたことが確認できた。また、当地では、貯蔵穴の一部に 1 m 以上の削平を受けているものが存在する一方、掘立柱建物跡に伴うと思われる柱穴などに残りの良いものが認められることから、弥生時代中期以降に、尾根を削平して平坦面を増やす造成が行われた可能性がある。また、擾乱の埋土から陶磁器の破片が出土することから、中近世まで断続的に土地利用が行われていたと考えられる。

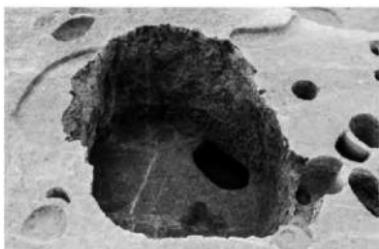
(田中)



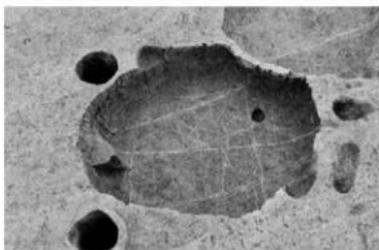
3. 1号小堀臺棺墓（東から）



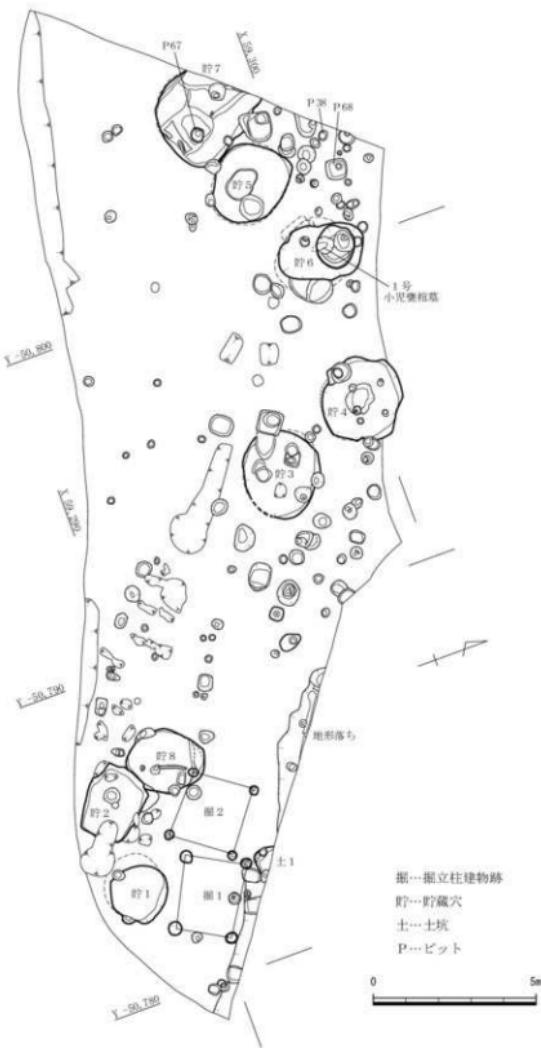
4. 4号貯蔵穴完掘（南から）



5. 6号貯蔵穴（北から）



6. 8号貯蔵穴（西から）



7. 造構配置図 (1/150)

## 7 大土居水城跡（8次調査）

所在地 春日市昇町8丁目12、13番

調査面積 約275m<sup>2</sup>

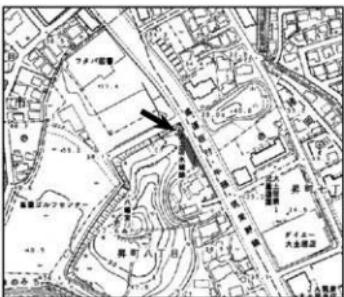
調査期間 2020年9月1日～2021年2月26日

特別史跡大土居水城跡は県道により東西に分断されている。8次調査地点は土星の西侧部分で、土星が背後の丘陵に取り付く位置にあたる。また、県道西側の切通された土星の断面は長年の風雨や樹木等により劣化、後退が著しい状態である。土星の保護及び整備により土星を顕在化し活用を図るために整備に先立ち、保護盛土等の設計の基礎資料を得ることを目的として発掘調査を実施した。

### 遺構・遺物

発掘調査は道路によって既に切通されている土星の断面を精査した。この他、土星の範囲や積み土の残存状況を確認するため、土星の南側、東側、北側にトレンチを6ヶ所設定した。

切通し断面の土層は、上成土星の積み土が博多湾側では、数cm単位で層状に積まれており、博多湾側から土星の横断面中央部分にかけて砂質土主体の積み土が山なりに重ねられている。また、横断面のほぼ中央にあたる位置では黒色土塊が縦方向に重なるように使用されている。黒色土塊は端部の断面形状が丸みをおびていることから、土甕の可能性もある。この



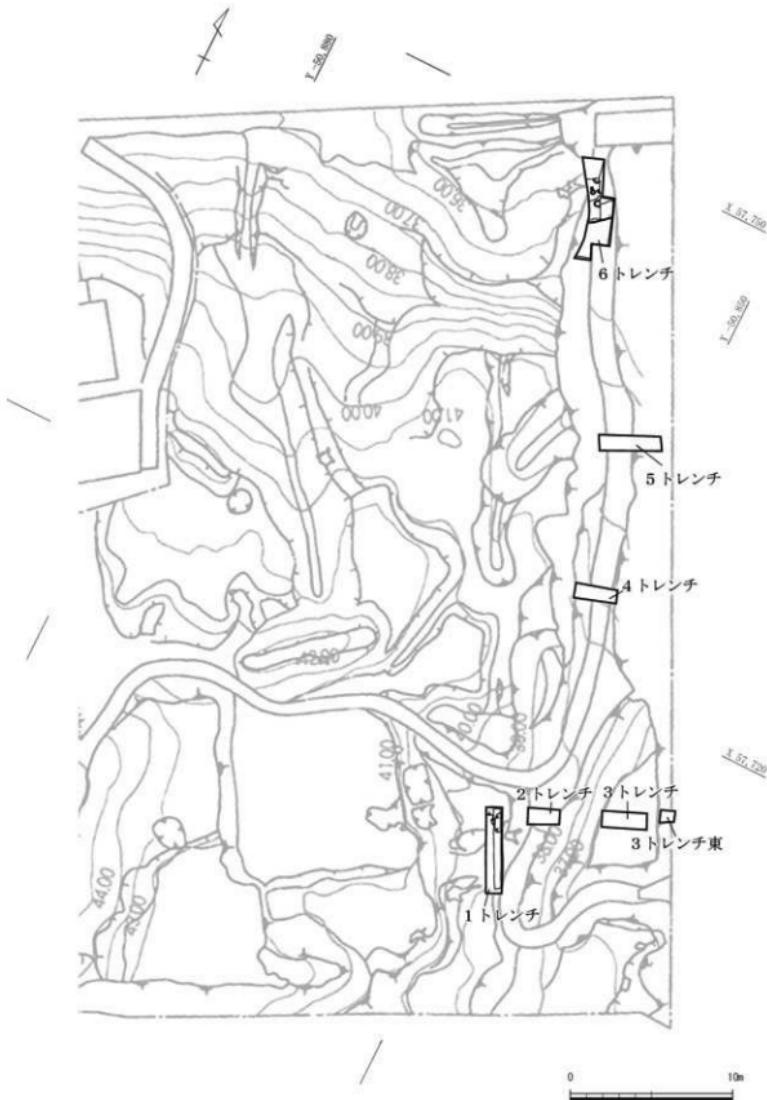
1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 大土居水城跡全景 (上が西)



3. 県道西側土星切通し断面全景 (東から)



4. トレンチ配置図 (1/300)



5. 土壘中央部黒色土積み土状況（東から）

縦方向に黒色土塊が重なる部分から南側は数cm単位で積み土がなされているが、土質自体はほぼ同じで、積み土にしまりがない所もある。土壘の上部は全体的に黒色土と赤褐色の粘性のある花崗岩風化土壤を交互に重ねている。

土壘の南側で東西方向に設置した1～3トレンチは、史跡指定前の宅地造成時による切土、盛土があり、現地表面から深さ60～190cmで地山に達した。切通し断面東側の現園路から斜面に設定した4、5トレンチでは、現園路部分まで掘削された後に盛土されていることがわかった。5トレンチでは積み土中で、直径5～7cmの重なり合う円弧状の浅い凹痕を確認した。これは版築における突き棒の痕跡と考えられる。切通し面の北端に設定した6トレンチでは、現地表面より深さ約260cmで下成土壘の下端を確認した。

#### 小 結

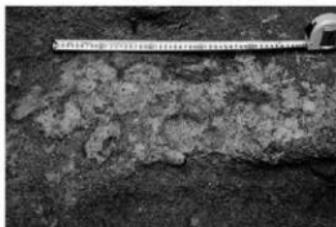
上成土壘では北側（博多湾側）の積み土層の単位が細かく、南側に傾斜している点で大水城の構造とよく似ている。

下成土壘と上成土壘の間のテラスは樹木の根により不明瞭ではあるが、その幅は約2mである。下成土壘の外側（北側）で、下成土壘法面の旧表土にかぶさるように別の旧表土がみられる。この旧表土下は山なりになっており、盛土状遺構の可能性があるが、出土遺物がないため時期がわからない。

今回の調査における土壘の積み土で最も特徴的であるのは、土壘横断面中央部の縦方向に積まれた黒色土塊である。この土塊状のものが層状の積み土と併用されており、築堤工程に関与することは明らかであり、土構造物として土壘を検討する上で重要である。（森井）



6. 5トレンチ積み土検出状況（東から）



7. 5トレンチ突き棒痕跡（東から）



8. 6トレンチ土層断面（南東から）

## 8 日拝塚遺跡（10次調査）

所在地 春日市上白水10丁目15番1・5

調査面積 175.32 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年9月16日～11月13日

日拝塚遺跡は、春日丘陵西側に広がる河岸段丘上に立地する。遺跡の中央部には後期古墳として著名な日拝塚古墳があり、過去の調査では弥生～古墳時代の集落や墓地も確認された。特に、10次調査地の南隣地の8次調査では、石棺墓、木棺墓、土壙墓が確認され、墓地が当該地まで延びることは確実であった。ただし、8次調査の墳墓は削平のため残りが悪く、遺物もほぼ出土しないため、時期は弥生～古墳時代としか判断できなかった。このため、10次調査で墓地の性格が明らかになることが期待された。なお、日拝塚遺跡からは、かつて銅劍が出土したとされる。

今回の調査は個人専用住宅に伴う緊急発掘調査である。

### 遺構・遺物

当該地の道を挟んだ北には日拝塚古墳がある。重機で表土などを除去すると地表下10～30cmで赤褐色粘質土を基盤とする地山を検出した。調査前に家屋があったため、かなり攢乱があった。しかしながら、8次調査同様、当該地の南部を中心に10基の墳墓を検出した。削平を受けるものが多く、検出



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区東半全景（上が西）



3. 調査区西半全景（東から）

面が棺底のものもある。床面壁際に小溝が巡り、縫隙が残存するものがあるため、墳墓の中には土壙墓の他に、石棺墓、木棺墓があることが分かる。ただし、石棺墓か木棺墓か、木棺墓か土壙墓かは判断できないものがあり、今回は1～10号墓とする。床面を中心赤色顔料が認められるものがあり、6号墓の上層からは直径5～6cm程度の小型の仿製鏡1/2が出士した。全体的に鏽びひどく文様は不鮮明だが、九州歴史資料館の協力によるX線撮影の結果、鏡齒文などが見られたので、古墳時代の仿製鏡と推察できた。他の墳墓からは、時期を確定できるような遺物は出土していない。ただし、2・4・5号墓の埋土は、固く締まり、色調は地山との区別が不明瞭であった。さらに、床面までが深く、土器小片や石器の風化具合から考えれば、弥生時代前期の墳墓の可能性がある。なお、これらの墳墓には、赤色顔料はない。

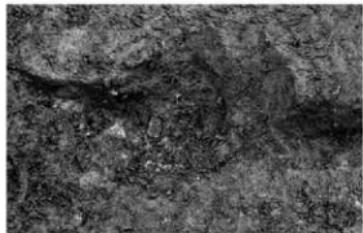
この他の遺構は、土坑1基と溝1条やピットを検出した。良好な遺物が出土しないため、各遺構の時期を確定することは難しいが、土坑は弥生時代、溝は須恵器甕の胴部片が出土するため古墳時代以降と考えられる。

#### 小 結

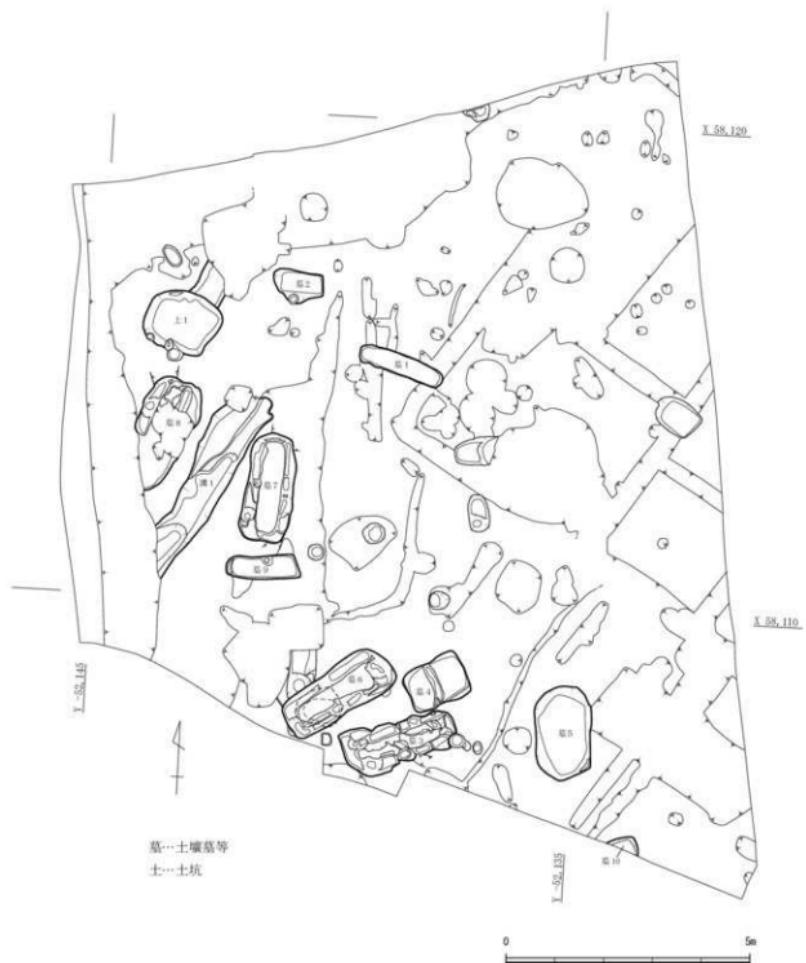
今回の調査は、出土遺物が少ないため時期を検証することは難しいが、墓地を中心とする遺跡を確認した。墓地は弥生時代前期と古墳時代のもので、古墳時代と考えた墳墓は、銅鏡から判断した。これらの墳墓からは赤色顔料が出るが、分析結果はベンガラ（暫定）のため、当地の弥生時代の墳墓に水銀朱が使われることを考慮すれば矛盾はない。（井上）



4. 3号土壙墓（南東から）



5. 6号土壙墓鏡出土状況（北から）



6. 遺構配置図 (1/100)

## 9 野藤遺跡（8次調査）

所在地 春日市須玖北6丁目 69番、71番

調査面積 394 m<sup>2</sup>

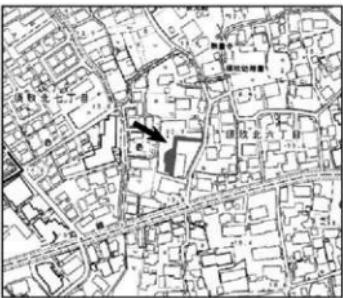
調査期間 2020年11月9日～2021年3月16日

野藤遺跡は、春日丘陵の西に隣接した台地上に所在する。調査地はこの台地の西斜面付近にあたり、遺構面の標高は19～21mである。弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、これまでの調査により、弥生時代の墳墓、古墳時代初頭の竪穴建物跡、5世紀後半の前方後円墳（野藤1号墳）の周溝、中世の地下式壙や溝などを確認している。8次調査は、野藤遺跡の南端部にあり、東側に隣接する4次調査では、弥生時代の掘立柱建物跡、中世の溝や土坑墓を確認している。

今回の調査は宅地造成に伴う緊急発掘調査である。

### 遺構・遺物

8次調査では、竪穴建物跡1軒、掘立柱建物跡2棟以上、ピットなどを検出し、弥生土器、須恵器、



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (上が東)

石器などが出土した。

今回は道路部分のみの調査のため、調査区をL字状に設定した。調査区の東部と南部は、後世の整地等によって削平されており、調査区の北西隅で遺構を確認した。また、調査区南端部は地形が下がっており、地形の落ち際である可能性が考えられる。

1号竪穴建物跡は、調査区北部で検出した。後世の擾乱によってほとんどが削平を受けたが、東側の壁面と床面の一部のみ残存する。東側の壁面に沿つて幅0.15m、深さ0.1mの壁溝が延びており、床面では、わずかながら貼床を確認したほか、建物に伴う土坑を確認した。

掘立柱建物跡は調査区のL字コーナー付近で2棟検出した。1号掘立柱建物跡は、桁行3.6m、梁間3.4mを測り、柱穴は1辺が0.6～0.8mの隅丸方形である。2号掘立柱建物跡は、桁行3.4m、梁間2.8mを測り、柱穴は1辺が0.5～0.6mの隅丸方形である。調査区の際で柱穴を確認したことから、調査区外に広がる可能性がある。また、ピットのなかには、柱穴と同一規模のものを確認しており、複数の建物が存在していたと考えられる。

### 小 結

今回の調査地点は、後世の開発などにより削平を受けたが、調査区の北部で竪穴建物跡や掘立柱建物跡を確認することができた。遺構検出面は、南北間で約1m、東西間で約0.4mと高低差があり、特に遺構面が高い調査区中央部は遺構がなかった。また、調査区南部際では掘削しても地山に到達しないことから、地形が下がっているものと判断した。

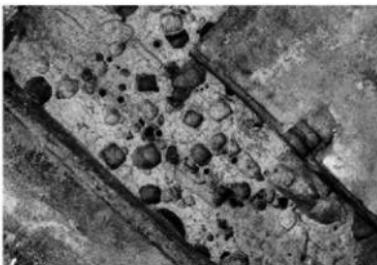
本調査地の東側に隣接する4次調査の調査成果を勘案すると、少ない情報ながらも集落の広がりを確認することができた。(熊塙御堂)



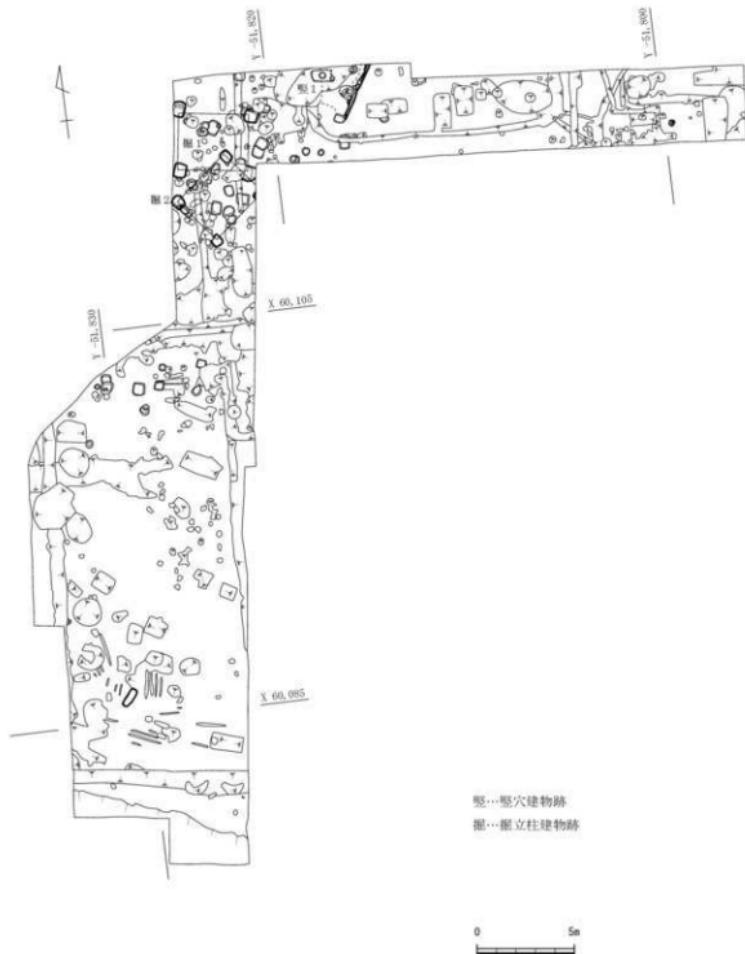
3. 1号竪穴建物跡（上が北東）



4. 1号掘立柱建物跡（上が北）



5. 2号掘立柱建物跡（上が北東）



## 10 仁王手B遺跡（7次調査）

所在地 春日市小倉7丁目101番

調査面積 75.6 m<sup>2</sup>

調査期間 2021年2月15日～3月26日

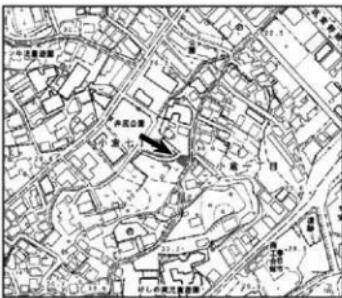
仁王手B遺跡は、春日丘陵中央部から東に延びる支丘陵上に展開する。過去6回の発掘調査では弥生時代前期末から中期初頭の貯蔵穴や中期の墳墓、古墳時代の竪穴建物跡、平安時代の木棺墓等が確認された。

今回の調査地は標高約31.5mを測り、遺跡が展開する丘陵の北側緩斜面にあたる。分譲住宅の建設に伴う緊急発掘調査である。

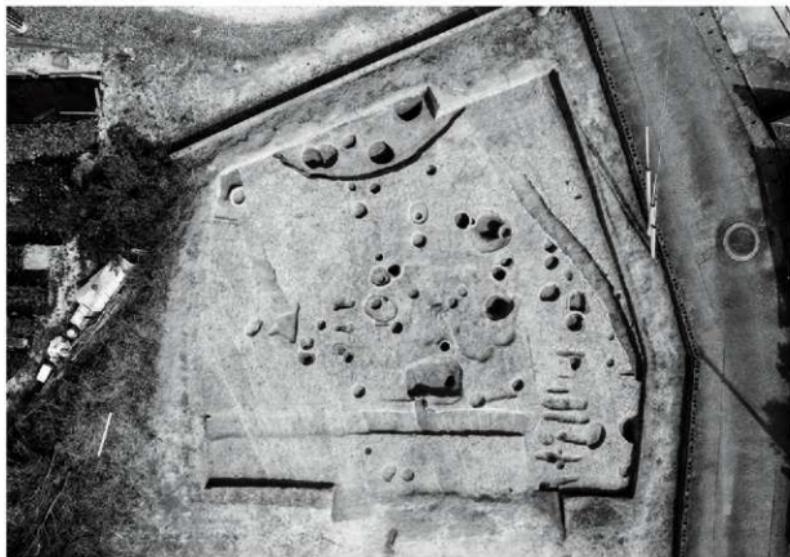
### 遺構・遺物

7次調査では、竪穴建物跡2軒、溝状遺構1条、炉跡3基、ピットを確認した。全体的に後世の整地により削平されており、遺構・遺物の大半を北東部で確認した。

竪穴建物跡は、1号竪穴建物跡が弥生時代中期、2号竪穴建物跡が弥生時代後期である。1号竪穴建



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北）

物跡は調査区の北端で検出し、平面形は弧を描く。壁面に沿って幅 20 cm、深さ 5 cm の壁溝があるが断続的である。床面には主柱穴が 3 つ並ぶ。2 号竪穴建物跡は調査区の中央で確認した。削平が著しく壁面は南側の一部が残るのみである。主柱穴が東西方向に 2 つ配置され、中央が不整形に被熱する。南壁の中央付近に長軸 136 cm、短軸 96 cm、深さ 52 cm の平面方形の屋内土坑が掘られる。土坑からは、ほぼ完形の弥生時代後期の高杯、器台などが出土した。

溝状遺構は、調査区の東部で検出した。幅 52 cm、深さ 43 cm、断面が台形～U 字状で南北方向に延びる。8 世紀後半の須恵器が出土した。

その他の遺構として、2 号竪穴建物跡の西側で、3 基並んだ炉跡を検出した。炉の平面形は略楕円形で、長軸約 30～50 cm、短軸 20～30 cm、検出面から床面までの深さは約 10 cm である。壁面は赤く被熱しており内湾する。内部には炭が 2～3 cm の厚みで堆積し、硬化する面が見られた。遺物がなく詳細な時期は不明だが、2 号竪穴建物跡の主柱穴との位置関係から竪穴建物跡に伴わないと思われる。

#### 小 結

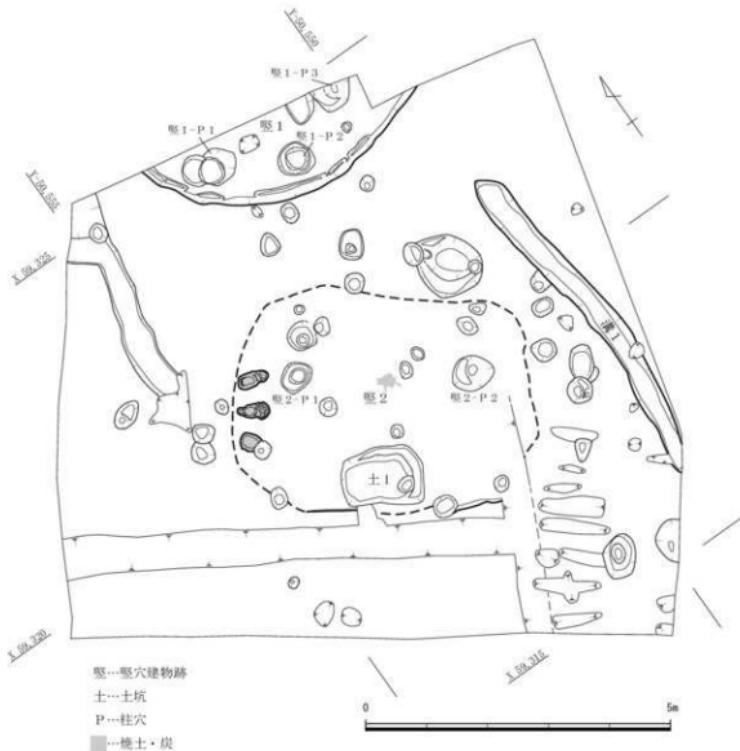
今回の調査では、弥生時代と古代の集落の展開を考察する上で成果を得た。炉跡については上部が削平されているため詳細が不明である。近接する仁王手 A 遺跡の例を勘案すると、鉄器の生産（小鍛冶）に伴う可能性もあるが、調査時点ではほとんど鉄片は出土せず、また時代も不明のため断定できない。今後、周辺の調査事例の増加を待ち、あらためて検討を行いたい。（山崎）



3. 1号土坑土器出土状況（西から）



4. 炉跡検出状況（東から）



5. 造構配置図 (1/80)

## 11 須玖岡本遺跡岡本地区（24次調査）

所在地 春日市岡本1丁目71・72番の一部

調査面積 6.9 m<sup>2</sup>

調査期間 2020年10月5日

須玖岡本遺跡は春日市北部にあり、春日丘陵の先端部を占地する。丘陵上から裾部にかけて起伏の多い地形で標高は約36.8～17.5mを測る。後に奴国王墓に比定される甕棺墓が明治32年に発見されて以降、相次ぐ発掘調査により王族墓域、一般成員墓域、集落城、青銅器工房群等の様相が明らかになりつつある。現在は、平成30年に策定した「史跡須玖岡本遺跡保存活用計画」に基づき、国史跡指定など地権者の協力を得ながら遺跡の保存・活用に努めている。

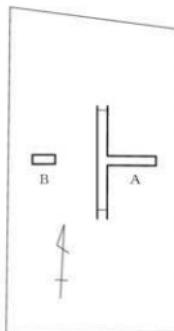
今回の確認調査は、時間貸し駐車場の建設計画に伴い、事前に遺構の有無及び工事が遺跡に及ぼす影響を確認するために実施した試掘調査である。

### 調査の概要と検出遺構

事前調査時まで対象地は家庭菜園として利用されており、地表面は南隣の県道路面より約30cm高く、標高は概ね20.1m前後である。遺構確認は対象地の中央に幅約60cmのトレンチAをT字形に設定し、地山面と堆積土の層位を精査・観察した。また、地山面の傾斜を確認するためトレンチAの西側に0.6×2mのトレンチBを設定したが、対象地内では地山面に大きな傾斜や起伏は認められなかった。地表面から約65cm～85cmの深さで暗黄褐色を呈するローム質の地山に達し、この面に弥生時代の集落や墳墓に関係するものと見られる土坑や小穴などの遺構を確認した。遺構の埋土は黄褐色土塊を含む暗茶褐色土で、微細な土器片が少量認められた。確認調査の性格上、遺構を掘削していないため断定はできないが、明らかに甕棺墓と思われる埋土は確認されなかった。しかし、平成8年に東隣で実施した須玖岡本遺跡岡本地区12次調査では甕棺墓や土坑墓が検出されていることから、トレンチA中央部に検出したやや大きめの遺構は、祭祀土坑あるいは土坑墓の可能性が高いと考えられ



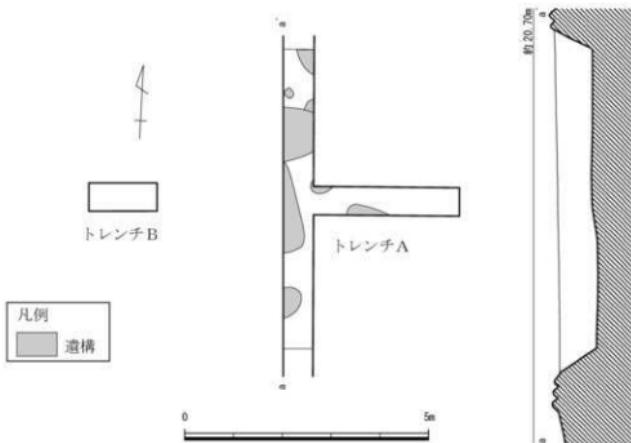
1. 調査地の位置 (1/5000)



2. トレンチ配置図 (1/300)



3. 遺構検出状況 (北から)



4. 遺構検出状況略図 (1/100)

る。これらの遺構は対象地全体に分布するものと判断され、遺構検出面の大部分が後世の耕作などにより削平を受けているが、トレンチAの南部では遺構上面に暗茶色土の遺物包含層が認められることから、遺構の密度としては南側の方がより濃密になるものと想定される。

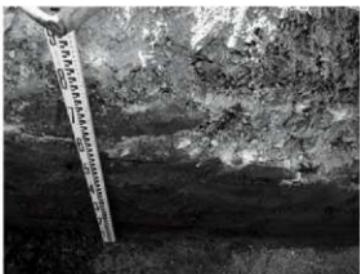
#### 小 結

今回の調査地点は、須玖岡本遺跡岡本地区の王族墓域に連続する甕棺墓群が分布する台地の最先端部に位置している。これまでに周辺で実施された発掘調査の成果から、当地の甕棺墓群は弥生時代中期前半に形成され始め、中期中頃から後半にかけて最盛期を迎えたものと考えられる。また、台地の先端に近い方に古いものが多い傾向が認められるようである。東隣の岡本地区12次調査では、中期前半から中頃にかけての堅穴建物跡や8世紀頃の溝なども検出されており、今後は埋葬遺構に限らず生活遺構や弥生時代以降の遺構の状況も注視する必要がある。

調査後、当地は南接する県道と同レベルまで耕作土が漉き取られ、アスファルト舗装を施した駐車場となつたが、舗装面路床の約35cm下には今回確認された遺構が損壊されることなく保存されている。(吉田)



5. 遺構検出状況（東から）



6. 覆土層序（東から）

### III 文化財普及啓発事業

(令和2年5～12月、令和3年1～3月)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言により、  
令和2年3月1日から令和2年5月18日まで臨時休館

#### 1 企画展示等

##### ① トピック展示

テーマ 「市指定化記念展」

会期 8月1日（土）～8月31日（月）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 620人

##### ② 考古企画展

テーマ 「春日市の遺跡から出土した木製品」

会期 9月19日（土）～11月1日（日）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 843人

##### ③ 特別展示

テーマ 「明らかにされた奴国のおもり」

会期 1月5日（火）～2月15日（月）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 エントランス

入館者 982人

##### ④ 民俗企画展

テーマ 「ナニコレ！？民具展」

会期 1月16日（土）～2月28日（日）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 1,231人

#### 関連体験

日時 11月7日（土）

テーマ わくわく歴史体験「むかしの道具体験」

参加者 18人



トピック展示 展示風景



考古企画展 展示風景



特別展示 展示風景



民俗企画展 展示風景



やきものづくり教室

## 2 やきものづくり教室

毎月第2土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各1回やきものづくり教室を実施しました。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため11月、12月のみ開催)

参加者(年4回実施)合計 35人



石包丁づくり

## 3 わくわく歴史体験

### 第1回 石包丁作り

日 時 7月18日(土)

午前10時～正午／午後1時30分～3時30分

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 15人



竹弓ヒコーキ大会

### 第2回 竹弓ヒコーキ大会

日 時 8月6日(木)、7日(金)、20日(木)

午後1時30分～3時30分

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館、歴史公園

参加者 33人(3日間合計)



奴国せっけんづくり

### 第3回 奴国せっけんづくり

日 時 8月11日(火)

午後1時30分～4時30分

8月29日(土)

午前10時～正午／午後1時30分～3時30分

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 エントランス

参加者 32人(2日間合計)



むかしの道具体験

### 第4回 むかしの道具体験

日 時 11月7日(土)

午前10時～正午／午後1時30分～3時30分

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 トラックヤード

参加者 18人



しめ飾りづくり

### 第5回 しめ飾りづくり

日 時 12月5日(土) 午前10時～正午

講 師 熊野神社氏子

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 20人

## 4 弥生の里かすが奴国のかずが丘フェスタ

9月26日（土）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年度に延期しました。



学習支援活動（見学）

## 5 学習支援活動

小中学校の授業や生涯学習活動の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施しました。

市内小中学校 21件（1,607人）

市内中学校職場体験 1件（5人）

一般団体 16件（211人）



職場体験

## 6 出前講座等

自治会等が開催するイベントや市内にある学校の授業への支援を行いました。

市内学校 12件

自治会等 9件



出前講座（勾玉づくり）

## 7 ボランティア組織

春日市奴国のかずが丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う資料館ガイドボランティアと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが組織されています。

資料館ガイドボランティア 10名

やきものボランティア 20名



出前講座（むかしの道具体験）

## 8 資料貸出

考古資料等 3件

写真資料 25件

模型 1件



ボランティア活動風景

## 9 入館者数

春日市奴国のかずが丘歴史資料館 6,213人

ウトグチ瓦窯展示館 554人

## 10 利用案内

春日市奴国の丘歴史資料館（春日市岡本3丁目57番）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 每月第3火曜日（祝日に当たる場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料（特別展では有料の場合もあり）

駐車場 22台駐車可（無料）

交通アクセス JR鹿児島本線 春日駅より徒歩20分

西鉄天神大牟田線 雜餉隈駅より徒歩24分

九州自動車道 太宰府インターより車で5.6km

春日市コミュニティバス

①桜ヶ丘線 奴国の丘歴史資料館前下車すぐ

②須玖線 岡本1丁目下車徒歩7分

ウトグチ瓦窯展示館（春日市白水ヶ丘1丁目4番）

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日、祝日、第3火曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料

駐車場 1台

交通アクセス JR鹿児島本線 春日駅  
西鉄天神大牟田線 春日原駅 } より西鉄バス「池の下」下車徒歩5分

JR博多南線博多南駅より徒歩15分

春日市コミュニティバス

上白水線 ウトグチ瓦窯展示館下車徒歩2分

## IV 附編（調査・研究報告）

### 1 民俗文化財の保存・活用

#### ① 民俗文化財調査

春日市には、国指定重要無形民俗文化財である春日の婿押しをはじめ、嫁ごの尻たたきや盆綱引きなどの様々な行事があるものの、近年の急激な社会構造の変化や継承する担い手の高齢化によって変容・衰退したものが多くみられる。また、絵馬や石造物といった有形民俗文化財も市内各所に見られるが全容把握がされていない。そのため令和元年度から民俗文化財調査専門員を配置し、記録・保存を目的とした調査を実施した。

#### 【調査内容】

##### 〔無形民俗文化財〕

- ・ 10月 10日（土）、11日（日） 注連縄づくり（熊野神社）
- ・ 10月 14日（水） 注連縄づくり（浦原八幡宮）  
例祭（浦原八幡宮）
- ・ 10月 15日（木） 注連卸し祭（白水八幡宮）
- ・ 10月 17日（土） 秋の例祭（大土居八幡宮）  
秋祭り神事（熊野神社）  
秋の例祭（老松神社（上の宮））  
秋の例祭（昇町八幡宮）  
当番渡しの儀（白水八幡宮）
- ・ 10月 18日（日） 宮座祭（春日神社）  
秋の例祭（老松神社（中の宮））
- ・ 1月 9日（土） 嫁ごの尻たたき 準備（小倉地区）
- ・ 1月 10日（日） 春日の婿押し 神事（春日地区）
- ・ 1月 14日（木） お焚き上げ（小倉地区）



注連縄づくり（熊野神社）



注連縄づくり（浦原八幡宮）



秋の例祭（大土居八幡宮）



秋の例祭（老松神社）

#### 【調査報告】

##### ・ 注連打ち

今回は、熊野神社と浦原八幡宮の2ヶ所の調査を実施した。各神社の氏子たちが神社境内にあつまり、その地域内で育てた稻わらを使用して、注連縄づくりをしている様子を調査した。

##### ・ 秋の例祭

各神社で行われる秋の例祭は、人数を制限して実施していたため、聞き取り調査を行った。各神社において、特有の呼称や供物、当番渡しの神事などを確認することができた。

#### ・春日の婿押し

今回は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令されていたため、祭礼を構成する多くの行事が令和4年に延期になったが、神事的性格が強い若水祭のみ春日神社で実施されたため、聞き取り調査を行った。



春日の婿押し（若水祭）

#### ・嫁ごの尻たたき

嫁ごの尻たたきは、3年ぶりに実施する予定で、地元の人たちと準備を進めていたが、緊急事態宣言が発令されたため、行事の実施を取りやめた。そのため準備を進めていた左義長に代わり、お焚き上げを行った。



嫁ごの尻たたき（お焚き上げ）

### ② 民俗資料（民具）整理作業

市に寄贈された民俗資料（民具）について、令和元年度から改めて整理作業を行った。民俗資料（民具）の大きさや記銘、破損箇所、虫害などの状況を目視による確認をした上で、写真撮影を行い、基礎的なデータを有形民俗文化財カードに記録する作業を実施した。



状況確認調査と並行して、民俗資料（民具）のクリーニング作業を実施し、春日北小学校内に設置した新規保管スペースへの移転のための作業を優先的に進めた。新規保管スペースでは、小学校の学習の一環で、見学や民俗資料（民具）に触れてもらう体験などを行った。



整理作業の様子

### ③ 民俗資料（民具）の活用

資料館見学時や小学校の授業時の活用の他に、資料館内や図書館などでの展示資料としても活用を行っている。小学校の授業では、直接民具に触れてもらう体験を行っており、使い方や作り方の工夫などを学ぶ機会を提供している。今後も学習支援や体験教室などで、民俗資料（民具）の活用を行いたい。



春日北小学校での民俗資料の活用

令和2年度  
春日市文化財年報

発行日 令和4年3月31日  
編集・発行 春日市教育委員会  
福岡県春日市原町3丁目1番地5  
印 刷 株式会社 昭和堂  
長崎県諫早市長野町1007-2



